

*IBM WebSphere Business Integration  
Collaborations for Healthcare バージョン 1.0*  
*IBM WebSphere Business Integration  
Collaborations バージョン 4.5*



## インストール・ガイド

お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、21 ページの『特記事項および商標』に記載されている情報をお読みください。

本書は、

*IBM® WebSphere® Business Integration Collaborations for Healthcare* (5724-H61) バージョン 1

*IBM WebSphere Business Integration Collaborations* (5724-C12) バージョン 4 リリース 5

および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： IBM WebSphere Business Integration Collaborations for Healthcare Version 1.0  
IBM WebSphere Business Integration Collaborations Version 4.5  
Installation Guide

発 行： 日本アイ・ピー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2004.1

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2002, 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2004

---

## 目次

<b>ソリューションのインストール</b>	<b>1</b>
ソリューションの説明	1
関連資料	2
命名規則	2
ソフトウェア前提条件	3
インストールの前に	3
Electronic Software Distribution パッケージ内容	4
「System Manager」を使用した Healthcare Transaction のインストール	9
コラボレーション・オブジェクトの作成	10

Healthcare アダプターの構成	11
WebSphere MQ Workflow アダプターの構成	15
<b>データベース接続プールの作成</b>	<b>18</b>
データベースおよびテーブルの作成	18
IBM WebSphere InterChange Server への配置	20

<b>特記事項および商標</b>	<b>21</b>
特記事項	21
プログラミング・インターフェース情報	23
商標	23



---

## ソリューションのインストール

IBM<sup>(R)</sup> WebSphere<sup>(R)</sup> Business Integration Collaborations for Healthcare には、14 のコラボレーション・テンプレートの集合である WebSphere Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction が入っています。本資料では、WebSphere Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction の最新バージョンのインストール方法について説明します。最新バージョンは パスポート・アドバンテージよりダウンロードが可能です。

この Healthcare Transaction コラボレーションのリリースはインストール可能 Electronic Software Distribution (ESD) パッケージとして入手が可能ですが、IBM WebSphere InterChange Server V4.2.1 には同梱されていません。本資料では、Microsoft<sup>(R)</sup> Windows<sup>(R)</sup> および AIX<sup>(R)</sup> UNIX システムについてのインストール方法を提供します。

注: このリリースより、WebSphere Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction は、AIX V5.1、AIX V5.2 で実行されている、または Windows 2000 で実行されている IBM WebSphere InterChange Server V4.2.1 でサポートされます。

---

## ソリューションの説明

IBM<sup>(R)</sup> WebSphere<sup>(R)</sup> Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction は、医療関連会社および医療専門機関が Health Level Seven (HL7) Standard Version 2.4 標準メッセージングに適合できるように設計された、14 のコラボレーション・テンプレート (8 つのサポート・テンプレートおよび 4 つのサンプル・コラボレーション・テンプレートを含む) の集合です。さらに、多数の HL7 メッセージ・タイプの構築および使用をサポートする 500 以上の汎用ビジネス・オブジェクトを収容しています。

以下のコラボレーション・テンプレートは WebSphere Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction に含まれています。

### HL7-ベース・コラボレーション・テンプレート

- HC\_QBP\_Z01 (パラメーターによる照会 - 事象 Z01)
- HC\_RSP\_Z01 (セグメント形式応答 - 事象 Z01)
- HC\_OMP\_O09 (薬剤オーダー/処置メッセージ - 事象 O09)
- HC\_ORP\_O10 (薬剤オーダー/処置確認通知 - 事象 O10)
- HC\_QRY\_A19 (照会 - 事象 A19)
- HC\_ADR\_A19 (ADT 応答 - 事象 A19)
- HC\_OMG\_O19 (汎用臨床オーダー・メッセージ - 事象 O19)
- HC\_ORG\_O20 (汎用臨床オーダー確認通知 - 事象 O20)
- HC\_QBP\_Z02 (パラメーターによる照会 - 事象 Z02)
- HC\_RSP\_Z02 (セグメント形式応答 - 事象 Z02)
- HC\_SRM\_Resource (スケジュール要求メッセージ - リソース)

- HC\_SRM\_Service (スケジュール要求メッセージ - サービス)
- HC\_SRR (スケジュール要求応答)
- HC\_ACK (汎用確認通知)

#### HL7-サポート・コラボレーション・テンプレート

- HC\_Z01\_Email (パラメーターによる照会 - 事象 Z01 - E メール)
- HC\_SaveOrder (薬剤オーダー/処置メッセージ - オーダー要求の保管)
- HC\_271RSP (薬剤オーダー/処置メッセージ - 権限チェック)
- HC\_EMR\_Email (薬剤オーダー/処置メッセージ - 権限チェック E メール)
- HC\_EMR\_Alert (薬剤オーダー/処置メッセージ - 指示アラート)
- HC\_GetTask (スケジュール要求メッセージ - 負傷関連タスク)
- HC\_EMR\_Update (薬剤オーダー/処置メッセージ - 診療記録の更新)
- HC\_OMP\_Email (薬剤オーダー/処置メッセージ - E メール確認通知)

#### サンプル・コラボレーション・テンプレート

- HCDemo\_Alert (薬剤オーダー/処置メッセージ - 指示アラートの発行)
- HCDemo\_Notify (ADT 応答 - 通知)
- HCDemo\_SRM\_Resource (スケジュール要求メッセージ - リソース・スケジュール/キャンセル)
- HCDemo\_SRM\_Service (スケジュール要求メッセージ - サービス・スケジュール/キャンセル)

## 関連資料

WebSphere Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction を使用してソリューションを実装するには、以下の WebSphere InterChange Server 資料をいくつか参照する必要があります ( WebSphere Business Integration Library を参照)。

- IBM WebSphere InterChange Server システム・インストール・ガイド (Windows 版)
- IBM WebSphere InterChange Server システム・インストール・ガイド (UNIX 版)
- Adapter for WebSphere MQ Workflow
- IBM WebSphere InterChange Server システム管理ガイド
- マップ開発ガイド
- Adapter for Healthcare Data Protocols

## 命名規則

ディレクトリー、名前、ID、およびパスワードの規則は以下のとおりです。

表 1. 命名規則

表記	説明	例
<WICS>	IBM WebSphere InterChange Server がインストールされているディレクトリー	/usr/IBM/WebSphereICS または C:\IBM\WebSphereICS

表 1. 命名規則 (続き)

表記	説明	例
<WBI/Healthcare>	IBM WebSphere Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction がインストールされているディレクトリー	C:\¥IBM¥ESD¥HC
<WICServer>	IBM WebSphere InterChange Server がインストールされているサーバーの名前	wicserver
<WICSADMINID>	IBM WebSphere InterChange Server の管理者 ID	admin
<WICSADMINPWD>	IBM WebSphere InterChange Server の管理者パスワード	null

## ソフトウェア前提条件

IBM WebSphere InterChange Server およびその前提条件を、「システム・インストール・ガイド (UNIX 版)」の説明に従って AIX V5.1 または AIX V5.2 プラットフォームに、または「システム・インストール・ガイド (Windows 版)」に従って Windows 2000 に、正しくインストールする必要があります。前提条件は以下のとおりです。

- IBM WebSphere InterChange Server V4.2.1 (次のプログラムを含む)
  - Borland Visibroker V4.5
  - WebSphere MQ V5.3.0.1 (Corrective Service Disk 3 適用済み)
- IBM WebSphere Business Integration Toolset V4.2.1
- IBM DB2<sup>(R)</sup> Universal Database V8.1 (Service Pack 2 適用済み)、または他のサポートされているデータベース
- IBM WebSphere MQ Workflow V3.4、Service Pack 1 以降を適用済み (注:IBM WebSphere MQ Workflow Client をインストールするときは、Client Sample を含めること)
- IBM WebSphere Business Integration Adapter for WebSphere MQ Workflow V2.3.1
- IBM WebSphere Business Integration Adapter for Healthcare V2.3.1
- Windows: Java<sup>TM</sup> Development Kit 1.3.1\_06  
AIX: Java Development Kit 1.3.1 (ビルド ca131-20020706)

## インストールの前に

インストール手順を実行する前に、インストールに必要なソフトウェアをパスポート・アドバンテージ ([www.lotus.com/passportadvantage](http://www.lotus.com/passportadvantage)) からダウンロードし、それを適当なディレクトリーに解凍してあることを確認してください。ダウンロードの説明については、パスポート・アドバンテージを参照してください。これらの手順を続行する前に、WebSphere Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction の InstallShield プロセスに従う必要があります。

## Electronic Software Distribution パッケージ内容

この節では、WebSphere Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction の内容を記載します。この節で説明するフィールドはすべて、パスポート・アドバンテージ InstallShield プロセス中に指定したディレクトリーに解凍されます。InstallShield インストール・プロセスを実行していない場合は、処理を続行する前にそのプロセスを行ってください。

Healthcare Transaction ファイルは以下のフォーマットを使用します。

表 2. ファイル・フォーマット

ファイル名	説明
BIA_BO_HealthCare.jar	IBM WebSphere Business Integration Business Object リポジトリ・ファイル
BIA_CT_HealthCare.jar	IBM WebSphere Business Integration Collaboration Template リポジトリ・ファイル
BIA_ORG_HealthCare.zip	WebSphere MQ Workflow モデル定義を含む IBM WebSphere Modeler インポート・ファイル
BIA_FDL_HealthCare.fdl	ワークフロー処理定義を含む IBM WebSphere MQ Workflow FDL ファイル
BIA_Create_HLTHCARE_Databases.txt	Windows 用 DB2 SQL データベース作成スクリプト
BIA_Create_HLTHCARE_Tables.txt	Windows 用 DB2 SQL テーブル作成スクリプト
BIA_Create_HLTHCARE.tar	UNIX 用 SQL データベース および テーブル作成スクリプトを含む DB2 TAR ファイル
BIA_Demo_QTurn.zip	サンプル・コード。提供されたサンプルのサポート用 QTurn アプリケーション・ファイル
BIA_Demo_Support.zip	サンプル・コード。提供されたサンプルのサポートに使用される QTurn アプリケーション・ユーザー入力ファイル
BIA_Demo_HealthCare.jar	サンプル・コード。4 つのサンプル・コラボレーションを含む WebSphere Business Integration Collaboration Template リポジトリ・ファイル
Healthcare_Passthru.bat	Compliance Report または Cascading Orders ワークフロー・プロセスで使用されるバッチ・ファイル
BIA_PortalSample.zip	サンプル・コード。WebSphere Portal Server とともに使用するために、Healthcare サンプルのサポートで使用されるソース付きポータル・アプリケーション



表 2. ファイル・フォーマット (続き)

ファイル名	説明
BIA_BO_X12_HealthCare.jar	Healthcare Electronic Medical Record サンプルで使用される HIPAA Transaction 汎用ビジネス・オブジェクト用の IBM WebSphere Business Integration Collaboration のサブセット

以下のテーブルは、WebSphere Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction の内容です。

表 3. HC\_QBP\_Z01 コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_QBP_Z01.cwt HC_QBP_Z01.java HC_QBP_Z01_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MTQBP.xsd MQWF_QBP_Z01.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 4. HC\_RSP\_Z01 コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_RSP_Z01.cwt HC_RSP_Z01.java HC_RSP_Z01_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MTRSP_Z01.xsd MQWF_RSP_Z01.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 5. HC\_OMP\_O09 コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_OMP_O09.cwt HC_OMP_O09.java HC_OMP_O09_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MQWF_OMP_O09.xsd MTOMP.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 6. HC\_ORP\_O10 コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_ORP_O10.cwt HC_ORP_O10.java HC_ORP_O10_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MTORP.xsd MQWF_ORP_O10.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 7. HC\_QRY\_A19 コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_QRY_A19.cwt HC_QRY_A19.java HC_QRY_A19_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル

表 7. HC\_QRY\_A19 コラボレーション・テンプレート (続き)

ファイル名	説明
MQWF_QRY_A19.xsd MTQRY.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 8. HC\_ADR\_A19 コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_ADR_A19.cwt HC_ADR_A19.java HC_ADR_A19_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MTADR.xsd MQWF_ADR_A19.xsd MTADR_action.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 9. HC\_OMG\_O19 コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_OMG_O19.cwt HC_OMG_O19.java HC_OMG_O19_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MQWF_OMG_O19.xsd MTOMG.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 10. HC\_ORG\_O20 コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_ORG_O20.cwt HC_ORG_O20.java HC_ORG_O20_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MTORG.xsd MQWF_ORG_O20.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 11. HC\_QBP\_Z02 コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_QBP_Z02.cwt HC_QBP_Z02.java HC_QBP_Z02_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MQWF_QBP_Z02.xsd MTQBP.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 12. HC\_RSP\_Z02 コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_RSP_Z02.cwt HC_RSP_Z02.java HC_RSP_Z02_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MTRSP_Z02.xsd MQWF_RSP_Z02.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 13. HC\_SRM\_Resource コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_SRM_Resource.cwt HC_SRM_Resource.java HC_SRM_Resource_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MQWF_SRM_Resource.xsd MTSRM.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 14. HC\_SRM\_Service コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_SRM_Service.cwt HC_SRM_Service.java HC_SRM_Service_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MQWF_SRM_Service.xsd MTSRM.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 15. HC\_SRR コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_SRR.cwt HC_SRR.java HC_SRR_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MTSRR.xsd MQWF_SRR.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 16. HC\_ACK コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_ACK.cwt HC_ACK.java HC_ACK_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MTACK.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 17. HC\_Z01\_Email コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_Z01_Email.cwt HC_Z01_Email.java HC_Z01_Email_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MQWF_Z01_Email.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 18. HC\_SaveOrder コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_SaveOrder.cwt HC_SaveOrder.java HC_SaveOrder_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
EMR_UPDATE.xsd X12_A1_270.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 19. HC\_271RSP コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_271RSP.cwt HC_271RSP.java HC_271RSP_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
X12_A1_271.xsd MQWF_EMR.xsd EMR_Struct_OMP_Email.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 20. HC\_EMR\_Email コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_EMR_Email.cwt HC_EMR_Email.java HC_EMR_Email_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
EMR_Struct_OMP_Email.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 21. HC\_EMR\_Alert コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_EMR_Alert.cwt HC_EMR_Alert.java HC_EMR_Alert_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MQWF_OMP_Alert.xsd OMP_EMR_ALERT.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 22. HC\_GetTask コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_GetTask.cwt HC_GetTask.java HC_GetTask_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MQWF_HC_GetTask.xsd MQWF_HC_GetTaskResponse.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 23. HC\_EMR\_Update コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_EMR_Update.cwt HC_EMR_Update.java HC_EMR_Update_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MQWF_OMP_UpdateEMR.xsd MQWF_UpdateEMR.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 24. HC\_OMP\_Email コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HC_OMP_Email.cwt HC_OMP_Email.java HC_OMP_Email_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MQWF_OMP_Email.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

以下のテーブルでは、サンプルのコラボレーション・テンプレートに含まれるファイルを記載します。

表 25. *HCDemo\_Notify* コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HCDemo_Notify.cwt HCDemo_Notify.java HCDemo_Notify_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MTADR_action.xsd HCDemo_Notify_xml.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 26. *HCDemo\_SRM\_Resource* コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HCDemo_SRM_Resource.cwt HCDemo_SRM_Resource.java HCDemo_SRM_Resource_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MTSRM.xsd MTSRM_Resource_Schedule.xsd MTSRM_Resource_Cancel.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 27. *HCDemo\_SRM\_Service* コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HCDemo_SRM_Service.cwt HCDemo_SRM_Service.java HCDemo_SRM_Service_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
MTSRM.xsd MTSRM_Service_Schedule.xsd MTSRM_Service_Cancel.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

表 28. *HCDemo\_Alert* コラボレーション・テンプレート

ファイル名	説明
HCDemo_Alert.cwt HCDemo_Alert.java HCDemo_Alert_en_US.txt	コラボレーション・テンプレート・ファイル
OMP_EMR_ALERT.xsd	ビジネス・オブジェクト・ファイル

---

## 「System Manager」を使用した Healthcare Transaction のインストール

IBM WebSphere Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction をインストールするには以下の手順を実行します。

1. Generic Business Objects リポジトリ・ファイルを System Manager へインポートするには、該当の「Integration Component Library」インスタンスを右マウス・ボタン・クリックし、「リポジトリ・ファイルのインポート」を選択します。  
BIA\_BO\_HealthCare.jar ファイルをインポートします。  
**重要:** 再インストールの場合、このファイルにより既存のビジネス・オブジェク

ト・ファイルは置き換わります。インポート終了後にこれらの変更点をそのオブジェクトに適用するため、インポートを行う前に、最初のインストール後に変更したすべてのオブジェクトを、必ずバックアップまたはコピーしてください。

2. Collaboration Template リポジトリ・ファイルを System Manager へインポートするには、該当の「Integration Component Library」インスタンスを右マウス・ボタン・クリックし、「リポジトリ・ファイルのインポート」を選択します。

BIA\_CT\_HealthCare.jar ファイルをインポートします。

**重要:** 再インストールの場合、このファイルにより既存のコラボレーション・テンプレート・ファイルは置き換わります。インポート終了後にこれらの変更点をそのオブジェクトに適用するため、インポートを行う前に、最初のインストール後に変更したすべてのオブジェクトを、必ずバックアップまたはコピーしてください。

3. Health Insurance Portability and Accountability Act (HIPAA) 汎用ビジネス・オブジェクトのサブセットをインポートするには、該当の「Integration Component Library」インスタンスを右マウス・ボタン・クリックし、「リポジトリ・ファイルのインポート」を選択します。 BIA\_BO\_X12\_HealthCare.jar ファイルをインポートします。

**重要:** WebSphere Business Integration Collaboration for HIPAA Transaction の旧バージョンがインストールされている場合、このファイルにより既存のビジネス・オブジェクトのサブセットは置き換わります。 インポート終了後にこれらの変更点をそのオブジェクトに適用するため、インポートを行う前に、最初のインストール後に変更したすべてのオブジェクトを、必ずバックアップまたはコピーしてください。これらのファイルは、Electronic Medical Record をサポートするために使用されます。さらに、サンプルを Electronic Medical Record と連動させるために、HIPAA270Prov および HIPAA271Prov コラボレーション・テンプレートをインストールする必要があります。これらのコラボレーション・テンプレートは WebSphere Business Integration for HIPAA インダストリー・ソリューションで使用可能です。

4. WebSphere MQ Workflow 定義ファイルをインストールするには、fmcibie プログラムを使用します。BIA\_FDL\_HealthCare.fdl を WebSphere MQ Workflow Runtime データベースにインポートします。例えば次のとおりです。

```
fmcibie -iC:¥IBM¥ESD¥HC¥BIA_FDL_HealthCare.fdl -uADMIN -ppassword -o -t -l -f
```

5. Healthcare\_Passthru.bat ファイルを WebSphere MQ Workflow Runtime Client bin ディレクトリにコピーします。この .bat ファイルは、Compliance Report および Cascading Orders ワークフロー・プロセス定義の両方で使用されます。
6. WebSphere MQ Workflow モデルを表示するには、BIA\_ORG\_HealthCare.zip ファイルを unzip し、その .org ファイルを IBM WebSphere Business Integration WorkBench にインポートします。

## コラボレーション・オブジェクトの作成

コラボレーション・オブジェクトを作成するには、以下の手順を実行します。

1. 「System Manager」で、「Collaboration Templates Component」を右マウス・ボタン・クリックして「すべてコンパイル」を選択し、テンプレートをコンパイルします。
2. 「System Manager」で、「Collaboration Objects Integration Component」を右マウス・ボタン・クリックして「新規コラボレーション・オブジェクト」を選択し、

新規オブジェクトを作成します。Healthcare サンプル環境の説明と、それぞれのポートのバインド方法についてのサンプル・フォルダー・ファイルが含まれている Demo\_README.doc を参照してください。

- 作成する各コラボレーション・オブジェクトごとに、ステップ 1 および 2 を繰り返します。

## Healthcare アダプターの構成

WebSphere Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction で使用する Healthcare アダプターを構成するには以下の手順を実行します。

- HL7 Datahandler を使用して Healthcare アダプターを呼び出すコラボレーションを使用可能にするには、BIA\_STATIC\_MO\_HL7 メタ・オブジェクトをエディットする必要があります。「System Manager」で、「**Business Object Designer**」をクリックします。「Business Object Designer」で、「ファイル」>「開く」をクリックし、BIA\_STATIC\_MO\_HL7 ビジネス・オブジェクトを選択します。「アプリケーション固有の情報」欄を修正して、HOSTNAME.queue.manager を WebSphere ICS システムの名前に変更します。以下のテーブルは、「Business Object Designer」で表示される BIA\_STATIC\_MO\_HL7 メタ・オブジェクトを示しています。

表 29. BIA\_STATIC\_MO\_HL7 メタ・オブジェクト

名前	タイプ	アプリケーション固有の情報
MTQBP_Create	ストリング	OutputQueue=queue:// HOSTNAME.queue.manager/HCQBP
MTOMP_Create	ストリング	OutputQueue=queue:// HOSTNAME.queue.manager/HCOMP
MTSRM_Resource_Cancel_Create	ストリング	OutputQueue=queue:// HOSTNAME.queue.manager/HCSRMRRC
MTSRM_Resource_Schedule_Create	ストリング	OutputQueue=queue:// HOSTNAME.queue.manager/HCSRMRMS
MTSRM_Service_Schedule_Create	ストリング	OutputQueue=queue:// HOSTNAME.queue.manager/HCSRMS
MTSRM_Service_Cancel_Create	ストリング	OutputQueue=queue:// HOSTNAME.queue.manager/HCSRMSC
MTOMG_Create	ストリング	OutputQueue=queue:// HOSTNAME.queue.manager/HCOMG
MTQRY_Create	ストリング	OutputQueue=queue:// HOSTNAME.queue.manager/HQRY

- Healthcare アダプターを呼び出すコラボレーションを使用可能にするには、以下のテーブルに示すように BIA\_MO\_DataHandler\_HL7 ビジネス・オブジェクトをエディットします。それぞれの CFG ファイルの場所とファイル名を指し示すために、MTEventMap および I18N 属性を設定する必要がありますので注意してください。

表 30. BIA\_MO\_DataHandler\_HL7 ビジネス・オブジェクト

名前	タイプ	デフォルト
ClassName	スト リ ング	com.ibm.adapters.datahandlers. hl7.HL7DataHandler
BOPrefix	スト リ ング	HL7
Representation	スト リ ング	ネイティブ
FieldDelimiter	スト リ ング	
ComponentDelimiter	スト リ ング	^
RepetitionDelimiter	スト リ ング	~
EscapeDelimiter	スト リ ング	¥
SubcomponentDelimiter	スト リ ング	&
MTEventMap	スト リ ング	file=C:¥IBM¥WebSphereICS¥connectors¥Healthcare¥ dependencies¥hl7¥BIA_HL7MTEventMap.cfg
I18N	スト リ ング	file=C:¥IBM¥WebSphereICS¥connectors¥Healthcare¥ dependencies¥hl7¥BIA_HL7I18N.cfg
DummyKey	スト リ ング	ダミー
DefaultVerb	スト リ ング	Create
EnableStackTrace	スト リ ング	true

3. 以下の表に示すように、BIA\_HL7MTEventMap.cfg ファイルをエディットして、そのファイルのメッセージ・タイプおよび特定のビジネス・オブジェクトに対応するイベント・コードを組み込みます。

表 31. BIA\_HL7MTEventMap.cfg ファイル

イベント・コードおよび対応するビジネス・オブジェクト
Event=Z01 ; MT=RSP ; BOName=MTRSP_Z01
Event=Z02 ; MT=RSP ; BOName=MTRSP_Z02
Event=S01 ; MT=SRR ; BOName=MTSRR
Event=S04 ; MT=SRR ; BOName=MTSRR
Event=A19 ; MT=ADR ; BOName=MTADR
Event=O10 ; MT=ORP ; BOName=MTORP
Event=O20 ; MT=ORG ; BOName=MTORG
Event=O09 ; MT=OMP ; BOName=MTOMP

4. Healthcare アダプターの標準プロパティーを設定するには、「System Manager」で「Connectors Integration Component」を開き、「Healthcare Connector」をダブル



ルをクリックします。以下のテーブルは、サンプル・アダプター定義の標準プロパティーを示しています。

表 32. Healthcare アダプター・サンプルの標準プロパティー

プロパティー	値
AgentConnections	0
AgentTraceLevel	1
ApplicationName	HealthcareConnector
BrokerType	ICS
CharacterEncoding	ascii7
ConcurrentEventTriggeredFlows	5
ControllerStoreAndForwardMode	true
ControllerTraceLevel	0
DeliveryTransport	MQ
JvmMaxHeapSize	128m
JvmMaxNativeStackSize	128k
JvmMinHeapSize	1m
Locale	en_US
LogAtInterchangeEnd	false
MaxEventCapacity	2,147,483,647
MessageFileName	BIA_HealthcareConnector.txt
OADAutoRestartAgent	false
OADMaxNumRetry	1000
OADRetryTimeInterval	10
PollEndTime	HH:MM
PollFrequency	2000
PollStartTime	HH:MM
RepositoryDirectory	<REMOTE>
RestartRetryCount	3
RestartRetryInterval	1
WireFormat	CwBO

5. 「Connector Specific Properties」タブをクリックし、ご使用のコネクターのプロパティーを入力します。それぞれのキューに対し、実際のホスト名、ポート番号、およびキュー名を設定したことを確認してください。以下のテーブルは、Healthcare アダプター・サンプルのプロパティーをリストしています。

表 33. Healthcare アダプター・サンプルのコネクター固有のプロパティー

プロパティー	値
ApplicationUserName	
LogFileName	STDOUT
ArchiveQueue	queue://HOSTNAME.queue.manager/ MQCONNHC.ARCHIVE
Channel	CHANNEL1

表 33. Healthcare アダプター・サンプルのコネクター固有のプロパティ (続き)

プロパティ	値
InputQueue	queue://HOSTNAME.queue.manager/ MQCONNHC.IN?targetClient=1
Port	Port Number of HOSTNAME.queue.manager
DataHandlerConfigMO	BIA_MO_DataHandler_Healthcare
DataHandlerMimeType	hl7
ReplyToQueue	queue://HOSTNAME.queue.manager/ MQCONNHC.REPLY?targetClient=1
DataHandlerClassName	com.ibm.adapters.datahandlers. hl7.HL7DataHandler
InProgressQueue	queue://HOSTNAME.queue.manager/ MQCONNHC.IN_PROGRESS
HostName	システムのホスト名
ConfigurationMetaObject	BIA_STATIC_MO_HL7
ErrorQueue	queue://HOSTNAME.queue.manager/ MQCONNHC.ERROR
ApplicationPassword	
UnsubscribedQueue	queue://HOSTNAME.queue.manager/ MQCONNHC.UNSUBSCRIBED
TraceFileName	STDOUT
InDoubtEvents	再処理
PollQuantity	5

6. 以下のリストに従って、「サポートされているビジネス・オブジェクト」タブをクリックし、サポートされるビジネス・オブジェクトを設定します。(各「**Agent Supported**」チェック・ボックスを選択してエージェント・サポートを使用可能にする必要がありますので注意してください。)

- BIA\_MO\_DataHandler\_Healthcare
- BIA\_MO\_DataHandler\_HL7
- BIA\_STATIC\_MO\_HL7
- HL7\_SGMSH
- MTACK
- MTADR
- MTOMG
- MTOMP
- MTORG
- MTORP
- MTQBP
- MTQRY
- MTRSP\_Z01
- MTRSP\_Z02
- MTSRM

- MTSRM\_Resource\_Cancel
  - MTSRM\_Resource\_Schedule
  - MTSRM\_Service\_Cancel
  - MTSRM\_Service\_Schedule
  - MTSRR
7. ご使用のシステムに基づき、システムのホスト名、キュー・マネージャー、クライアント・チャンネルおよびポート番号を使用してメッセージング画面を更新し、WebSphere InterChange Server を実行します。 メッセージング・タイプはMQSERIES でなければなりません。

## WebSphere MQ Workflow アダプターの構成

WebSphere Business Integration Collaboration for Healthcare Transaction で使用する WebSphere MQ Workflow アダプターを構成するには以下の手順を実行します。

1. WebSphere Workflow アダプターの標準プロパティーを設定するには、「System Manager」で「Connectors Integration Component」を開き、「WebSphere MQ Workflow connector」をダブルクリックします。入力要求のあるフィールドで適切な値を入力します。(コネクター用の適切な値については、Adapter for WebSphere MQ Workflow の資料を参照してください。) 以下のテーブルは、MQ Workflow アダプター・サンプルの標準プロパティーを示しています。

表 34. MQ Workflow アダプター・サンプルの標準プロパティー

プロパティー	値
AgentConnections	0
AgentTraceLevel	1
ApplicationName	WebSphereMQWorkflowConnector
BrokerType	ICS
CharacterEncoding	ascii7
ConcurrentEventTriggeredFlows	5
ControllerStoreAndForwardMode	true
ControllerTraceLevel	0
DeliveryTransport	MQ
JvmMaxHeapSize	128m
JvmMaxNativeStackSize	128k
JvmMinHeapSize	1m
Locale	en_US
LogAtInterchangeEnd	false
MaxEventCapacity	2,147,483,647
MessageFileName	WebSphereMQWorkflowConnector.txt
OADAutoRestartAgent	false
OADMaxNumRetry	1000
OADRetryTimeInterval	10
PollEndTime	HH:MM
PollFrequency	2000

表 34. MQ Workflow アダプター・サンプルの標準プロパティー (続き)

プロパティー	値
PollStartTime	HH:MM
RepositoryDirectory	<REMOTE>
RestartRetryCount	3
RestartRetryInterval	1
WireFormat	CwBO

2. WebSphere MQ Workflow アダプターのコネクタ固有のプロパティーを入力します。それぞれのキューに対し、実際のホスト名、ポート番号、キュー・マネージャー名、およびキュー名を設定したことを確認してください。以下のテーブルは、サンプルの WebSphere MQ Workflow アダプター定義をリストしています。

表 35. WebSphere MQ Workflow アダプター・サンプルのコネクタ固有のプロパティー

プロパティー	値
MQSeriesChannel	FMCQM.CL.TCP
BOPrefix	MQWF_
WorkflowSystemName	FMCSYS
MQSeriesAPITraceLevel	0
MQSeriesHostName	ご使用のシステムのホスト名
MQSeriesQueueManager	FMCQM
ReplyToQueue	MQWFCONN.REPLY
MQSeriesCCSID	
JavaCorbaApi	false
UnsubscribedQueue	MQWFCONN.UNSUBSCRIBED
WorkflowAgentName	
InDoubtEvents	再処理
MQSeriesAPITraceFileName	STDOUT
InProgressQueue	MQWFCONN.IN_PROGRESS
DataHandlerConfigMO	MO_DataHandler_Default
ArchiveQueue	MQWFCONN.ARCHIVE
MQSeriesPort	5010
DataHandlerMimeType	text/xml
OutputQueue	FMC.FMCGRP.EXE.XML
WorkflowAgentLocatorPolicy	LOC
ErrorQueue	MQWFCONN.ERROR
WorkflowSystemGroup	FMCGRP
InputQueue	CWLDINPUTQ
DataHandlerClassName	com.crossworlds.DataHandlers.text.xml
ApplicationUserID	
ApplicationPassword	
PollQuantity	5

3. 以下のリストに従って、「サポートされているビジネス・オブジェクト」タブをクリックし、サポートされるビジネス・オブジェクトを設定します。(各「**Agent Supported**」チェック・ボックスを選択してエージェント・サポートを使用可能にする必要がありますので注意してください。)

- MO\_DataHandler\_Default
- MO\_DataHandler\_DefaultXMLConfig
- MO\_MQWorkflow\_ActivityInfo
- MO\_MQWorkflow\_ActivityRequest
- MO\_MQWorkflow\_ActivityResponse
- MO\_MQWorkflow\_ContainerInfo
- MO\_MQWorkflow\_ProcessInfo
- MO\_MQWorkflow\_ProcessInstance
- MO\_MQWorkflow\_ProcessTemplateConfig
- MQWF\_ADR\_A19
- MQWF\_EMR
- MQWF\_HC\_GetTask
- MQWF\_HC\_GetTaskResponse
- MQWF\_OMG\_O19
- MQWF\_OMP\_Alert
- MQWF\_OMP\_Email
- MQWF\_OMP\_O09
- MQWF\_OMP\_UpdateEMR
- MQWF\_ORG\_O20
- MQWF\_ORP\_O10
- MQWF\_QBP\_Z01
- MQWF\_QBP\_Z02
- MQWF\_QRY\_A19
- MQWF\_RSP\_Z01
- MQWF\_RSP\_Z02
- MQWF\_SRM\_Resource
- MQWF\_SRM\_Service
- MQWF\_SRR
- MQWF\_UpdateEMR
- MQWF\_Z01\_Email

4. ご使用のシステムに基づき、システムのホスト名、キュー・マネージャー、クライアント・チャンネルおよびポート番号を使用してメッセージング画面を更新し、WebSphere InterChange Server を実行します。適切なメッセージング・タイプが設定されていることを確認してください。

注:

- MQSeriesChannel および MQSeriesPort プロパティを、WebSphere MQ Workflow 構成が定義されている適切な WebSphere MQ チャネルおよびポートに必ず設定します。必要に応じ、MQSeriesQueueManager、WorkflowSystemName、MQSeriesHostName のデフォルト名、およびすべてのチャネル名定義を、コネクタ固有の画面で更新する必要があります。
- ApplicationUserID および ApplicationPassword プロパティを、有効な WebSphere MQ Workflow ID に必ず設定します。デフォルトでは、BIA\_FDL\_HealthCare.fdl は ID = ADMIN および password = password を使用します。
- サンプル・コラボレーションを使用したい場合、デフォルトの BOPrefix である MQWF\_ を必ず使用してください。サンプルにはそのビジネス・オブジェクトに対してこのプレフィックスが必要です。

## データベース接続プールの作成

ほとんどのコラボレーションはデータベース接続プールを使用します。接続プール作成手順については、「WebSphere InterChange Server システム管理ガイド」を参照してください。適切なユーザー ID およびパスワードを使用して、必ずデータベース接続プールを定義してください。接続プールで定義されたユーザー ID は、HEALTHCARE\_DB データベースおよびテーブルを作成したときに使用したものと同一 ID を使用する必要があります。コラボレーションで使用されるデフォルトの接続プール名は HEALTHCARE\_DB ですので注意してください。

以下のテーブルは、サンプル構成を示しています。

表 36. Healthcare データベース定義を使用したサンプル・データベース接続

フィールド名	値
データベース・ドライバ	例: DB2 (Type2)
DBConnection 名	例: HLTHCAREDB
ホスト名	
ログイン	存在する、有効な userid
データベース	HLTHCARE
パスワード	有効なログイン・パスワード
ポート番号	
最大接続数	最低 1 (無制限でない場合)
新規接続プール	HEALTHCARE_DB
最小接続数	1

Electronic Medical Record サンプルについては、HIPAADB データベース接続定義も必要です。このデータベース接続プールおよび HIPAADB データベースの作成の情報については、「WebSphere Business Integration for HIPAA インダストリー・ソリューション」資料の、「Installing the HIPAA solution」を参照してください。

## データベースおよびテーブルの作成

サポートされる各オペレーティング・システムについては、ご使用のデータベースおよびテーブルのセットアップを支援するために、Healthcare Transaction より 2 つ

のスクリプトが提供されます。このスクリプトにより HLTHCARE データベースがセットアップされます。このデータベースは特定の状態のデータを保持するために、さまざまなコラボレーション・オブジェクトで使用されます。

## Windows

Windows 環境でデータベースおよびテーブルを作成するには、以下の手順を実行します。

1. ファイル BIA\_Create\_HLTHCARE\_Database.txt および BIA\_Create\_HLTHCARE\_Tables.txt を見つけます (パスポート・アドバンテージからダウンロードした ESD パッケージに含まれています)。
2. ESD をインストールしたディレクトリーからこれら 2 つのスクリプトを実行して必要なデータベースとテーブルを作成します。(データベースを作成するスクリプトは、最初にすべてのデータベースの既存バージョンの削除を試みます。実行には数分を要します。) スクリプトの実行で使用するユーザー ID は、接続プールで定義されたものと同じ ID でなければなりません。例えば、認可された DB2 ユーザーは、DB2 端末装置で以下のコマンドを入力することができます。

```
db2 < BIA_Create_HLTHCARE_Database.txt
```

```
db2 < BIA_Create_HLTHCARE_Tables.txt
```

## AIX

AIX 環境でデータベースおよびテーブルを作成するには、以下の手順を実行します。

1. BIA\_Create\_HLTHCARE.tar ファイルをご使用の AIX システムに、バイナリー・ファイルでコピーします。
2. 次の BIA\_Create\_HLTHCARE.tar ファイルを解凍します。

```
tar -xvf BIA_Create_HLTHCARE.tar
```
3. ファイル BIA\_Create\_HLTHCARE\_Database および BIA\_Create\_HLTHCARE\_Tables を位置指定します。
4. 解凍されたファイルを含むディレクトリーから 2 つのスクリプトを実行して必要なデータベースおよびそれぞれのテーブルを作成します。(データベースを作成するスクリプトは、最初にすべてのデータベースの既存バージョンの削除を試みます。実行には数分を要します。) スクリプトの実行で使用するユーザー ID は、接続プールで定義されたものと同じ ID でなければなりません。例えば、認可された DB2 ユーザーは、DB2 端末装置で以下のコマンドを入力することができます。

```
db2 < BIA_Create_HLTHCARE_Database
```

```
db2 < BIA_Create_HLTHCARE_Tables
```

### 注:

- スクリプトは両方とも IBM DB2 インターフェースへの実際の呼び出しを含んでいます。WebSphere InterChange Server が実行されているオペレーティング・システムによっては、BIA\_Create\_HLTHCARE\_Database スクリプトを、特定のデータベース・ソフトウェア・パス向けにエディットする必要があります。
- バインド・ステートメントにより、実際のパスを該当のバインド・ファイルへ反映させる必要があります。

- Healthcare データベースに保留されているレコードの保守と管理は、データベース管理者の責任です。データベース・プルーニングまたは保守は Healthcare コラボレーションでは実行されません。
- HIPAADB データベースは、サブセットの HIPAA コラボレーションの使用で必要となります。データベースおよびそのテーブルを作成する 2 つのスクリプト・ファイルについては、WebSphere Business Integration for HIPAA インダストリー・ソリューションに付属する、「Installing the HIPAA solution」を参照してください。Electronic Medical Record サンプルではこのデータベースが使用されます。

## IBM WebSphere InterChange Server への配置

以下の Healthcare Transaction コンポーネントがそれぞれ WebSphere InterChange Server へ配置されたことを確認してください。

- ビジネス・オブジェクト
- WebSphereMQWorkflow および Healthcare コネクター
- コラボレーション・テンプレート
- コラボレーション・オブジェクト
- データベース接続プール
- すべての作成済みユーザー・マップ



---

## 特記事項および商標

---

### 特記事項

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032  
東京都港区六本木 3-2-31  
IBM World Trade Asia Corporation  
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Burlingame Laboratory Director  
IBM Burlingame Laboratory  
577 Airport Blvd., Suite 800  
Burlingame, CA 94010  
U.S.A

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

#### 著作権使用許諾

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。

## プログラミング・インターフェース情報

プログラミング・インターフェース情報は、プログラムを使用してアプリケーション・ソフトウェアを作成する際に役立ちます。

一般使用プログラミング・インターフェースにより、お客様はこのプログラム・ツール・サービスを含むアプリケーション・ソフトウェアを書くことができます。

ただし、この情報には、診断、修正、および調整情報が含まれている場合があります。診断、修正、調整情報は、お客様のアプリケーション・ソフトウェアのデバッグ支援のために提供されています。

**警告:** 診断、修正、調整情報は、変更される場合がありますので、プログラミング・インターフェースとしては使用しないでください。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

IBM  
IBM ロゴ  
AIX  
AS/400e  
CrossWorlds  
DB2DB2 Universal Database  
iSeries  
Lotus  
Lotus Notes  
MQIntegrator  
MQSeries  
OS/400  
Tivoli  
WebSphere

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

MMX、Pentium および ProShare は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

IBM WebSphere InterChange Server バージョン 4.2.2

IBM WebSphere Business Integration Toolset バージョン 4.2.2

IBM WebSphere Business Integration Adapters バージョン 2.4



